

## 眼の中にルテインに特化した結合蛋白質を発見

ユタ大学医学部の研究により、ルテインが加齢黄斑変性(AMD)を防ぐ重要な役割を果たすことを裏付ける事実が発見されました。

この研究により、黄斑におけるルテインの取り込みや代謝にこれら蛋白質が関わっていると仮定され、眼球内のルテインに対生物作用があるという考えもさらに強まっています。このことから、黄斑におけるルテインの取り込みや代謝にこれら蛋白質が関わっていると仮定され、眼球内のルテインに対生物作用があるという考えもさらに強まっています。

バーンスタイン氏によると、これはヒト網膜における特定のカロテノイド結合物質の存在を実証する初めてのデータであるとのこと。この研究結果は、これらの蛋白質にルテインを特別に運ぶ働きがある可能性を示しており、ルテインが眼を病気から保護したり、眼の健康全般に深く関わっているという博士らの見解が実証されました。

この知見は Experimental Eye Research 誌の2001年4月号において発表され、ルテインが虹彩や毛様体など眼球の内部構造ほぼすべてにおける主要なカロテノイドであるという同博士の先の研究報告(2001年3月号掲載)を裏づけるものになっています。

ルテイン情報局諮問委員長のロバート・アベル博士によると、ルテインは55歳以上の人における失明の主因である加齢黄斑変性(AMD)を防ぐのに最も効果的と認識されています。今回の研究により、眼の健康におよぼすルテインの役割がこれまで考えられていたよりもさらに特別であり、広範にわたる可能性が明らかになりました。

カロテノイドは、紫外線をはじめさまざまなタイプの光ダメージに対する防御膜として働きます。ルテインは葉状の濃い緑色をした野菜に多く含まれ、これら抗酸化物質の食品による摂取が低いとAMDを発症するリスクが高まるとの研究結果が出ています。

体内で生成されない物質であるため、ルテインを豊富に含む野菜や果物を毎日5人分摂取することが大切です。食事から十分なルテインを摂取できない人々にとってはサプリメントは、体内にルテインを補うもうひとつの選択肢となるでしょう。

この研究は米国国立衛生研究所(National Institutes of Health)、失明予防研究団体(Research to Prevent Blindness, Inc.)およびケミンフーズL.C.によって支援されました。月刊 Experimental Eye Research 誌は研究者の間で読まれる最先端の国際リサーチ機関誌であり、国際眼科研究学会(International Society of Eye Research)が発行しています。この機関についての詳細は www.iser.org をご覧ください。

2001年5月